

「新たな暮らし像求め」

——藤村童話から——

富田 和子

はじめに

平成10年3月11日（水）の朝日新聞朝刊16・17面に掲載された20歳以上を対象とした、「本社世論調査」の「新たな暮らし像求め」の中で「買えるなら」を、次のように分析している。

もしお金で買えるなら買いたい物は、なに？答えは世代によって大きく異なる。若い世代では「時間」「才能」、年代があがると「健康」を選ぶ人が増える。なかでも、20代前半では「時間」「才能」の二つに7割が集中。可能性への夢が見える。60歳以上では「健康」が7割を超えた。

「愛情」を選んだ人はわずか5%。お金では買いたくない、かけがえのない物の一つが「愛情」のようだ。

この基礎となったデータを「朝日総研リポート」No.131（一九九八・四）^{（注）}掲載の「全国世論調査詳報」質問32項目の内から搜すと、質問23「もし、お金で買えるとなれば、あなたは何かを買いたと思いますか。（回答カードから一つ選択）」

であろう。選択肢は「1愛情、2時間、3健康、4若さ、5才能、6名誉、7その他・答えない」の七つ。(別紙^(注2)1)
この回答方法は、複数選択ではなく、回答カードから一つ選択であるから、20代前半では「時間」派と「才能」派が各35%を超えていると見るべきであろう。

さて、大正10年、藤村50歳の時の「飯倉だより」に載る「童話」の中の一節に、^(注3)

私達が旅から帰って自分の家にも着くと、大人に聞かせたいことと、子供に聞かせたいと思ふことがある。
あの旅の日の思出は子供にのみ話せて、そんな小さな話の方に旅した土地のことが反つてよく表はれると思ふことがある。私達は一生の旅の間にも、斯うした小さな話をいくつとなく落して行く。広い人生には、童話の形式を取るより外に、どうしても表はせないと思はれるやうな部分がある。

と、述べている。(旧漢字体は新漢字体に改め、促音表記は現行の小文字表記に改めた。傍点は、富田による。以下、同じ。) 幼児や少年を対象とした童話に、父親である藤村が込めた「新たな暮らし像」から、彼の童話形式について、「時間」「才能」をキーワードとして、彼の童話4作の内、外国暮らしを経験した後で子供達に聞かせようとした46歳の時の「愛情」の塊のような第一章話『幼きものに』を考察したい。

一 お金のあるなしと人生の楽しみ方

さて、「全国世論調査詳報」質問15に「日用品以外の買い物について、あなたのお気持ちは、次の二つのうちではどちらに近いですか。(回答カードから一つ選択)」選択肢は「1買いたいものはあるが、お金がない。2お金があつて

も、買いたいものはない。3その他・答えない。」がある。(別紙1)

これに対して1を、全体の70%が選択し、年齢別では20・30代の80%以上が選択、特に20代後半の女性は90%が選択している。この1には、「日用品以外の買い物」ということから、買う行為、ショッピングを楽しみたいという気持ちも含まれるだろう。

若い世代、特に多くの学生には「時間」はあってもお金がないから、質問15に見られた購買意欲を満たすために、買いたいもののために、時間を切り売ってアルバイトしているのが実情であろう。だから、「時間」がなく、「時間」が欲しい。また、効率の良いアルバイトのために「才能」も必要ということか。とはいえ、アルバイトはお金があれば解決する。つまり、単純にお金を得るのが目的の場合と、お金があっても解決しない、つまり、従事する仕事・作業自体がキャリアを積むためや、自分の世界を広げる目的の場合とがあって、どちらも「時間」の使い方が注目される。

また、若い世代の「才能」を買うとは、偏差値教育を通して自分の限界をはかってしまつて、努力しなくても一流になりたいといった気分も窺えるが、20歳までに自分の才能に気付く事ができない、努力する方向性が見えないでいるともいえる。

20代後半は、その多くが仕事を持つようになる年代で、「健康」派の比率も「才能」派と並ぶ。殊に、女性はこの時点で「健康」派の比率が「時間」派・「才能」派を抜いている。女性の方が「健康」であれば、「才能」に頼らなくても着実に物事を進めて行くことができるという現実志向なのか、それとも子育てに関わる女性が多くなる年代でもあるからだろうか。

ところで、「時間」を買うとは、万人平等にある一日の持ち時間24時間を、2時間買うことで自分だけ26時間にする

とか、4時間買って30時間にすることだろうか。無理なことであるが、それなら夢はありそうだ。この買った時間を何に使うのか。遊び・勉強・睡眠・仕事、何にしても「ゆとり」という言葉が思い浮ぶ。とはいえ既に、人間は他人に代ってやって貰うことで、ある程度「時間」をお金で買えることは知っている。

30代後半にもなると、社会や職場・家庭での忙しさが増し、またその忙しさは、他人が代ってできるものではない、自分でなくてはという自負もあろう。規則正しい生活習慣やバランスの良い食事、適度な運動と日光浴が大切な事は分かっているても実行できない人が多いから、無茶をしても「健康」でいられること、無茶のできる「健康」を望むの
だろう。

そして、「愛情」の比率は全体の中では5%と低い、**「名譽」**の比率0%よりは高い。「愛情」を両面でとらえると、「受ける愛情」と「与える愛情」とがあらう。「与える愛情」をお金で買う代表的な行為とは、ペットの飼育ではないか。

年齢別にみると、20代前半の女性のみが2桁の10%で、20代後半になると1%と激減する。この1%は他には30代前半の男性に見られるのみで最も少ない比率である。子育て・ペットの飼育・仕事・趣味等、さまざまではあらうが、「愛情」を注ぐ先がはつきりしている年代ではないだろうか。このアンケート調査での「愛情」とはどちらかと言えば、「受ける愛情」の方で、お金では買いたくないというよりも、「受ける愛情」をお金で買うことの虚しさを理解できることと、愛情面では一番充実している人の多い年代に、より比率は低いのではないだろうか。

この「愛情」を注ぐ先が見えない、お金で買いたいと思う人が、他に比べて20代前半の女性に多いというのに、「20代前半では、・・・可能性への夢が見える。」と言いきれるのだろうか。

また、新聞紙上では「万能意識、着実に薄れる・お金への感覚」に、次のように分析する。

お金のあるなしと人生の楽しみ方は別——こんな考えがいまや多数派になっている。「お金さえあればいい」の楽しみは手にはいる」40%に対し、「そうは思わない」の方が59%。

しかし、かつて「お金さえあれば」の時代があった。一九八五年十二月調査で、「楽しみは手にはいる」が60%。バブル時代を挟んで、「お金離れ」は着実に進んでいる。

若い世代での変化が大きく、九三年十二月調査では、二十、三十代で五割を超えていた「手にはいる」が、今回はどの世代でも四割以下に減った。

この基礎データは、質問25「今の世の中では、お金さえあればいいの。楽しみは手にはいると思いますか。そうは思いませんか。」(別紙1)であろう。この質問の中にある「さえあれば」と「たいていの」という言葉をどのようにとらえたのか、ここでははっきりさせていない。

「お金のあるなしと人生の楽しみ方は別」とは、バブル経済崩壊後のお金の動きの鈍い時代を反映していて、「お金離れ」は着実に進んでいる。」との見方よりも、動きの鈍いお金に対して前向きな考え方で対応しているように感じる。人間の逞しさではないだろうか。

二 『幼きものに』

『幼きものに』の全編の構成は、はじめの4話を除いて、往路・滞在・復路での話となっており、「時間」の流れに沿って、旅を意識したものになっている。この旅の土産話は教育的・教訓的に語られると言われ、ここでは大まかに

三つに分けて、話題の大半を占める①珍しい物や事・風俗などを語ったもの（2・8・12・14・20・22・27・33・41・45・51・53・55・77）と、②愛情に関して語ったもの（1・9・11・13・21・42）、③その他（28・32・43・44・52・54）の中で、特に②「愛情」に関するものを中心に、藤村の教訓的・教育的な言葉を含む話のいくつかを引用して、^{（注6）}若い世代への「時間」「才能」と可能性への夢を考えてみる。

さて、「お金のあるなしと人生の楽しみ方は別」と同様な話題が第21話「雀の案内」に見られる。（ルビは省略した以下、同じ。）

「仏蘭西の雀さん、仏蘭西で一等幸福な子供を私に見せて呉れませんか。」と問いかけて、抄出すると、

大臣の子供……ひどい怠けもので、父さんに叱られてばかり居ます。

大将の子供……臆病もので、それに腹ちがひの兄弟ですから二人で喧嘩ばかりして、強い父さんを泣かせてばかり居ます。

大金持の家の子供……何事もあの子供の自由にはさせません。屋外へも一人では出しません。あゝして必と誰か附いて歩くのです。それにあの子供は氣むずかしくて、ちよいと氣に入らないことが有っても、直ぐに泣くものですから、皆なに嫌がられて居ます。

貧しい園丁の子供……親兄弟をよく愛します。親兄弟からも愛されて居ます。あの子供は自分を幸福にすることを知って居ます。あれが一等幸福な子供です。

と、雀に答えさせている。大臣や大将・大金持の家の子供たちが、皆、こんな子供ばかりとは限らないだろうが、「雀の案内で、おかげで父さんは幸福な子供を見ました。」と、どこにでもいる小さな雀に感謝しながら、「自分を幸福にすることを知って居るものが、一等幸福なものでした。」と、愛情の大切さを語り、幸福は「お金のあるなし」では計

れないとまとめる。そして、「ひどい怠けもの・叱られてばかり」「臆病もの・喧嘩ばかり・泣かせてばかり」「自由にはさせません・気むずかしく・直ぐに泣く・皆なに嫌がられ」、これらの言葉には、第4話「パンと葡萄酒」にあった、お前達も大きくなつて御覧なさい。自分で行かうと思へば、何処へでも行かれます。仏蘭西へ行つて葡萄酒を飲まうと、英吉利へ行つて紅茶を飲まうと、お前達の自由です。まあ一歩、日本から踏出して御覧なさい。広い／＼世界がありますよ。

と、「自由」という言葉に、子供達の前途にある無限の可能性、可能性への夢や「時間」「才能」の存在を語つたのに對して、第21話の「何事もあの子供の自由にはさせません。」は、人生の初めにおいて、可能性への夢や「時間」「才能」を奪われた不幸を感じさせる。

また、どこにでもいる雀の行動として語る第42話「親鳥の愛」で、

口嘴の黄色い、頭に産毛のある、一羽の雀の子が眼につきました。その雀の子は巢から落ちたのでした。……胸のあたりの黒い一羽の年とつた雀が近所の木から飛んで来まして、まるで石でも落ちたやうに犬の口の先のところへ落ちました。……なんと、年とつた雀は自分の子を助けようとしたのです。自分の子を防ぎ護らうと思つたのです。……あんまり一生懸命な声を出して鳴き叫んで、たうとう死んでしまひましたよ。

実際、雀が巢にいる雛鳥ではなくて、巢から落ちてしまつた雛鳥をこんな風にかばうものかどうかは別にして、どこにでもいる小さな雀の行動に、ほんの短い時間に起こつた打算のない親鳥の雛鳥への愛情を語り、これに続く第43話「正直な子供の話」では、親の愛情を受けて育つ漸く八歳になる幼い子供フィリップの自発的な行動を語る。

『ホラ、小父さん、貴方のとこの鶏が吾家の小屋へ来て玉子を産みましたから、僕が今持つて来ましたよ。』
『へえ、誰がお前さんをお使ひによこしたの。』と隣家の家の人が聞きました。

『だあれも。』

『ナニ、だあれも命令けないのに、お前さんが斯の玉子を持って来たのかい。』

『……僕は左様しなくちゃ不可と思ったから、したんです、……。』

と斯の正直な子供が答へました、とき。

太郎や次郎と同じ年頃に設定された子供フィリップの自発的な行動が、打算のない、子供の持っている可能性への夢を示唆する。

これに對して、第10話「鰐」では、

私などは子供の時分には弱かったものですから、親の鰐が言ふなり放題にして育て、呉れました。もう我儘一ぱいにして、自分のしたいことをして大きくなりました。ある時、……私の親鰐はしきりと止めましたが、私は親の言ふことなど聞入れないで……。私はそんな乱暴を働いて、我儘勝手に月日を送ったものです。今では私はこんな無精ものに成つて了ひ、小さな池の中に埋もれて居ります。一足もこの金網の外へ出ることが出来ません。御覽の通り、いたづらな番人のために毎日いぢめられ通しです。……あきらめて居ます。どうぞ日本の方へ御帰りになりましたら、セイゴンに居た無精な鰐の懺悔を若い身内のものへ御伝へ下さい。

と、親の愛情を無視して、親の言うことなど聞入れなかった大人の鰐の懺悔という形で、「小さな池の中に埋もれて居ります。一足もこの金網の外へ出ることが出来ません。」「いぢめられ通し・あきらめ」と前途に楽しみも可能性への夢もない不自由な身の上に、親の愛情の深さ、過去になつた「時間」、埋もれさせてしまった「才能」を語らせる。

この懺悔話の少し後には、第13話「お釈迦さまの灯火」があり、

お釈迦さまは人の心に美しい灯火をつけて歩いたのです。

と、優しく語る。

これら「愛情」に関する話題は、外国の旅先で見聞した話として語られるが、何も外国のこととして語らなくても通用する話題が多い。知らなくても当たり前といった印象で、わざわざ外国旅行の中で気付いた事のように語るところに、鷗外や漱石・荷風等の「学的」「知的」「文学的」な印象の滞欧記録と比べて、藤村の滞仏記録「エトランジェ」や「幼きものに」「海へ」「飯倉だより」は素直であると言われる理由があるのではないか。

また、全編77話のほぼ真ん中の第36話「天文台の時計」では、

『……日本と仏蘭西では大分時間が違ひませうよ。私が国を出る時、神戸で時計を合せて来ましたが、上海まで来ましたら、一時間も違ひました。それから、船でこちらの方へ来れば来るほど時間が違ひました。そのたんびに私は船の時計を見て、時間を合せて来ました。』

『妙なものですな。同じ地球の上で、そんなに時間が違ひますかねえ。』と時計が申しました。

と、時差のあることを教えながら、万人平等に持っている「時間」は同じ様に見えても違う事を示唆する。

素直に「愛情」と若者の持つ「時間」「才能」を、外国の暮らしの中の小さな発見として語って、「お金のあるなし」と人生の楽しみ方は別」といった人間の逞しさを子供に聞かせている。

まとめ

現代の若い世代、特に20代前半が簡単な方法で手に入れたと思う「時間」「才能」と、藤村の童話『幼きものに』を考えた時、どちらの背景にも人間の逞しさを感じる。とりわけ、藤村が「子供に聞かせたいと思ふこと」の本質は、

苦悩や憎悪といったものではなく、「愛情」でしよう。この『幼きものに』は、旅と日常の対比を通して、子供の持っている「時間」や「才能」から可能性への夢を、彼の求めた「新たな暮らし像」に投影する試みであり、彼の童話形式であるように感じられる。

(平成十年十月)

注

(1) 編集・発行 朝日新聞社総合研究センター

(2) 調査方法 全国の有権者三千人に三月一、二の両日、学生調査員が個別に面接調査した。有効回答者数は二千二百十一人。有効回答率は七四%。女性五二%、男性四八%。年齢別は、二十代前半七%、同後半八%、三十代前半七%、同後半八%、四十代二三%、五十代一九%、六十代一六%、七十歳以上一三%。調査対象者の選び方は、層化無作為二段抽出法。全国の投票区を都市規模や産業率などで三百四十八層に分け、各層から無作為に投票区を抽出し調査地点とした。その投票区の選挙人名簿から平均九人の回答者を選んだ。(朝日総研リポート) No.131・136頁

表の欄外に、数時は%。「全体」のみ100%調整してある。「性別」などの各階層別では調整していないので合計が100%にならないものがある。「二」とあるのは実数がないものと注記がある。

(3) 『藤村書誌』(普及版 伊東一夫編 国書刊行会・昭48) 年譜による数え年。以下、同じ。

(4) 『藤村全集』第9巻 筑摩書房 昭42・7 一〇六頁

(5) 除外されるはじめの4話は、先に「大人に聞かせたい事と、子供に聞かせたいと思ふこと——藤村童話——」で、藤村の「渡航した三年間に、学童期にある子供達が『新生事件』の噂を聞いていないはずはなく、一方的な思い入れのこもった「はしがき」に続くこの4話は、起(どんな親でも子供に恥ずかしい思いをさせない)・承(珍しい土産品)・転(日本にいる愛しい子供達)・結(広い世界へ)となっていて、「決意」というより、小さな心を痛めながらも、とても聞き訳の良かった愛しい子供達への、藤村の一方的な言い訳ではないだろうか。」と、考察した。『椋山女学園大学研究論集』第30号第一部 平成11年3月

(6) 『藤村全集』第8巻 筑摩書房 昭42・6

(7) 高田博厚「藤村と「エトランジェ」「海へ」」(『藤村全集』第8巻付録月報10 筑摩書房 昭42・6)

「新たな暮らし像求め」

(別紙1)「朝日総研リポート」No.131 (一九九八・四)「全国世論調査詳報」より。

設 問		(質問15)				(質問23)							(質問25)			
数字は%。「全体」のみ100%調整してある。「性別」などの各層別では調整していないので合計が100%にならないものがある。「一」とあるのは実数がないもの。		日用品以外の買い物について、あなたのお気持ちは、次の二つのうちではどちらに近いですか。 (回答カードから一つ選択)				もし、お金で買えるとなれば、あなたは何を買いたいと思いますか。(回答カードから一つ選択)							今の世の中では、お金さえあれば、たいいていの楽しみは手にはいると思いますか。そうは思いませんか。			
		1 な あ い る い が た い お も の が は	2 の も お い そ の 他 ・ 答 え な	3 い そ の 他 ・ 答 え な		1 愛 情	2 時 間	3 健 康	4 若 さ	5 才 能	6 名 誉	7 い そ の 他 ・ 答 え な		1 手 に は い る	2 そ う は 思 わ な い	3 い そ の 他 ・ 答 え な
性別	全 体	70	24	6		5	15	54	12	12	0	2		40	59	1
	男 性	71	26	3		3	19	50	13	12	1	2		44	55	1
	女 性	70	23	7		6	11	57	11	12	0	3		36	62	2
	20～24歳	81	17	2		6	36	18	2	35	1	1		41	57	1
	25～29歳	83	15	3		2	34	27	9	25	1	2		41	59	-
	30～34歳	80	16	4		2	32	38	10	16	1	-		43	55	1
	35～39歳	80	18	2		4	23	50	7	13	1	3		40	58	2
	40～49歳	73	23	4		5	15	47	17	14	-	2		42	57	1
	50～59歳	73	22	5		4	7	62	17	6	0	2		42	58	-
	60～69歳	63	30	7		5	3	72	13	3	1	2		38	60	1
全体の年齢別	70歳以上	46	42	12		7	2	74	8	4	0	5		31	64	5
	20～24歳	80	18	2		3	40	15	2	37	1	1		43	56	1
	25～29歳	77	21	2		2	39	23	6	28	1	1		48	52	-
	30～34歳	73	23	4		1	45	32	5	15	1	-		47	52	1
	35～39歳	78	20	2		4	25	44	11	13	1	2		46	51	3
	40～49歳	71	26	3		3	16	45	19	15	-	3		49	50	0
	50～59歳	77	21	3		3	10	58	24	4	1	2		43	57	-
	60～69歳	62	33	5		2	6	75	12	2	1	3		38	60	1
	70歳以上	51	43	6		5	1	82	6	2	-	4		39	60	1
	20～24歳	83	15	1		10	32	21	3	32	-	1		39	59	1
男の年齢別	25～29歳	90	6	4		1	28	33	13	21	-	4		32	68	-
	30～34歳	87	10	3		3	21	44	13	18	-	-		40	58	1
	35～39歳	83	15	2		4	20	57	2	13	-	4		33	67	-
	40～49歳	75	20	5		7	14	50	14	14	-	1		36	63	1
	50～59歳	71	23	7		6	5	67	12	8	0	2		41	59	-
	60～69歳	63	29	8		8	2	70	14	3	1	2		38	60	2
	70歳以上	42	42	16		8	3	69	9	5	1	6		25	66	8
	事務職	73	24	3		3	21	46	12	16	0	2		39	59	1
	管理職	67	28	5		3	13	53	16	13	0	2		39	60	1
	産業労働者	76	20	3		5	18	51	10	15	1	1		48	52	0
職業別	商業などの労働者	76	20	4		7	18	48	9	15	0	2		42	58	1
	自営・専業主婦	67	28	5		3	11	59	16	10	1	1		37	62	1
	自由業者	62	31	8		4	15	54	19	4	-	4		50	50	-
	農林漁業者	72	22	6		7	7	61	13	6	1	6		42	57	2
	その他・無職	58	30	12		6	6	69	12	4	0	4		34	62	4
	13大都市	65	28	7		4	17	51	12	13	0	2		39	60	1
	有職者10万人以上	71	25	4		4	16	53	13	12	0	1		38	61	1
	その他の市 町 村	71	23	6		6	15	52	13	12	0	3		43	56	1
	町 村	73	22	5		6	12	57	10	11	1	3		40	58	2